

埼玉掃除に学ぶ会・埼玉便教会共催

「第156回茨城掃除に学ぶ会」

被災地支援掃除のご報告

平成二十七年十月四日(日)

茨城県常総市

■ たかがトイレ掃除、されどトイレ掃除。私は今回和式の便器1つしか綺麗にできませんでした。しかし、その1つに真剣に取り組み、ピカピカにすることができました。たった1つの便器。それを綺麗にしても周りの方たちは何も思わないかも知れません。しかし、自分がやったことに意味があるのだと、私は思います。今回のこの掃除に学ぶ会に参加できてよかったと、とても思いました。

■ このボランティアでは、誰かがやってくれることは当たり前なことではなく、どんなに大変で誰もやりたがらない仕事でも誰かしらがやってくれるという、ありがたみをもものすごく感じるボランティアになりました。そして誰もがやりたがらない仕事こそ、人に求められているのではないかと感じさせる1日もなりました。



開会式にあたり整然と並ぶ道具と参加者

「被災地支援清掃を終えて」

八潮高校 教諭 村田 陽

九月九日からの関東・東北豪雨で茨城県常総市付近は甚大な被害を蒙りました。被害の大きさを知り、何とか現地に駆けつけて支援をさせていただき、被災者を励ましたいと願っていましたところ、茨城掃除に学ぶ会の塚越さんが、トイレ清掃を通しての被災地支援活動を企画して下さい、この度、二十三名の仲間とともに参加させていただきました。

大里総合管理様のマイクロバスで八潮高校を出発したのは六時半でした。常磐道を谷和原ICで降りて、国道二九四号線を北上し常総市付近に至ると、収穫期を迎えた稲が無惨にも横倒しになり、ガードレールすら倒れている光景が目飛び込んできました。決壊した鬼怒川の堤防はすぐ近くにあるようです。その鬼怒川の橋を渡ると、間もなく今回の活動場所である石下総合体育館に到着しました。八潮高校から一時間弱の近さです。

石下総合体育館には、依然として避難してらっしゃる方が生活しています。体育館のフロアは段ボール等で仕切られ、その中で避難民がひっそりと生活しています。そんな様子を覗くことも申し訳ない気持ちでいっぱいでも不憫に思いましたが、その方々に清掃により間接支援ができるかもしれないことを思うと、やる気が湧き上がってきました。「埼玉からたくさんの高校生がバスに乗ってやってきて、トイレを素手で磨き上げた上、何も語らずに帰って行った」ということは、きっと被災された方々を励ますことに繋がると想ったのです。いや、たとえそれが被災された方々に知られずにいたとしても、トイレが確実にきれいになり、

自分たちの心も磨かれるのだから、それで十分とも思えてきました。

今回私は、八班という事で外トイレを担当させていただくことになりました。掃除開始前に利用したトイレが外トイレだったので、その激しい汚れ具合は分かっていました。現場到着後にリーダーさんから頼まれて、多目的トイレを本校三年生の宮本くんに教えながら担当することになりました。宮本くんは初めての本格的なトイレ掃除です。まず、床や壁の掃き掃除をしていきます。何匹も何匹もクモが出てきます。宮本くんは脚立に乗って蛍光灯とそのカバーを外してくれました。宮本くんは率先してきれいにしようとしてくれるのでとても快く感じます。そしていよいよ、便器掃除に取りかかります。宮本くんの実施例を示して任せた後、私は便座とカバーを外して、それらを屋外で拭くことにしました。宮本くんは躊躇せずに便器と向き合い、黙々と磨き上げていきます。トイレの外は、晴天下で暑いくらいでした。よく絞ったタオルで拭き始めると、手垢がずいぶん付着していることに気付きました。そこでカネオンを少し含ませて磨いてみると、その部分で日光を受けて明らかに光り輝きました。何だか嬉しくなり、便座カバーの表側を端から少しずつ丁寧に光らせていきます。このペースを進めると、便座カバーと便座だけで一時間以上は要すると考えましたが、何か心地よく、磨き進める手を止めることができずに進めました。考えてみれば、この便座カバーは通常は上げられたままで顧みられることはなく、しかも表側は誰に見られることはありません。されどそれでもいいと思えました。誰も見えないけど、今と同じくお天道様は見ている。誰にも知られないけど、私と天だけは知っている。そう想えてきたのでした。

順調に掃除は進み、洗面台やオムツ替え用の台、壁や床もきれいになっていきました。宮本くんはあの猛烈に汚れていた便器に見事に深い白色を甦らせてくれました。そして私の向き合った便座とカバーは宮本くんの手によって便器に再び据え付けられました。清掃開始から二時間あまり。開始前とは明らかに違う爽やかな空気がトイレに充ちていました。清々しい気持ちで私も満たされました。宮本くんありがとう。

清掃後は、塚越さんの依頼で駆けつけた女性陣がたくさんのおむすびを用意してくれました。日本を美しくする会の阿部さんも、新鮮なキュウリとおいしい甘味噌をたくさん用意してくれました。とても美味しかったです。掃除の準備から段取りも全てお任せ。往復の道のりも全て大里総合管理の野老さんにお任せ。何もかもいただき放しの申し訳ない一日でした。ありがとうございました。

日本を美しくする会

「第156回茨城掃除に学ぶ会 被災地支援掃除

常総市立石下総合体育館大会」に参加して

一步会 安齋作子

常総市情報が欲しいと思っていたところ、村田先生からのメールで当会を知り、キャンセル待ちで参加できましたことに感謝いたします。

久しぶりに東京の渡辺栄司さん、塩貝久さん始めグループの皆様

さん、PTAでお世話になった草加の中村さん、そして主催者の塚越康男さんとエンデバーツカコシの皆さんに再会でき、日本を美しくする会の素晴らしさを再認識しました。私は東日本大震災以来ずっと道路清掃を続けていますが、トイレ掃除は五年ぶりでした。

今回、男子便器にすっかり向き合わせて頂けました。

「一ヶ所に集中して」とアドバイスを受けましたが、尿の臭いが鼻につき、臭いの元を知りたくなりました。でも、塩貝さんたちが一心不乱に便器に向き合っているのを感じ気持ちを集中させました。何度も何度もこすっても落とせなかった尿石は、ヘラを使ってやさしくゆっくりこすると下に落ち、つるつるになりました。いろんな道具の役割を正しく知る必要を感じました。いろいろためして工夫された歴史があるのでしよう。感謝です。裏側の見にくい所は顔をくっつけてのぞき、指先でざらざらを感じながら何度も磨きました。

水こしは新しいため、以前苦労した時とは比べものにならないほど短時間できれいになりました。休憩時間、洗面台の汚れを落としました。一見真っ黒く汚れていましたが、便器とは違ってきれいになっていくことを楽しんでいくうちに時間となり、便器の仕上げに入りました。床にも臭いの元があるようで、カネヨンとスポンジでしっかりこすり、雑巾で拭き取りました。八人で男子便所掃除は大変でしたが、木村リーダーの裁量で時間通り終了しました。

たぐさんのおにぎりやキュウリの昼食も美味しくいただけ、嬉しく有難く思いました。ごちそうさまでした。

感想発表では、八潮高校生のパワーと志に頼もしさや希望を見

ました。子供たちを育て支えてくださる日本を美しくする会と先生方に、心より感謝申し上げます。

追伸

お声をかけた筑西市の渡辺弥生さんは、東北の方々に何かできないかと考えていたそうで、一步会とつながりました。記念写真をと撮影をお願いした福島県郡山の菊池功さんは、何と九月に北海道岩見沢に講演・交流に行っていた一步会の新妻会長一行に逢っていたとのことで、びっくり嬉しかった私です。

「茨城県常総市被災地支援清掃活動に参加して」

会田 尚子

9月10日の記録的な豪雨により甚大な水害が発生した常総市。堤防が決壊して水にのまれる住宅のショックな映像を見て、できるだけ早い時期に現地でなにかのお手伝いがあったらと思うていた矢先に、八潮高校の村田先生にボランティアバスが出ることを教えていただき、参加させてくださいました。いつもながら災害が起こるとすぐに動かれる村田先生の思いやりの深さとフットワークの軽さには頭が下がる。

当日は6時30分に八潮高校を出発し常総市へ向かった。常磐道を谷和原ICで降り、常総市付近に至ると、稲が横倒しになり、ガードレールまでも倒れている光景が目に入った。鬼怒川の堤防付近では濁流で横倒しになったままの木々が災害の甚大さを物

語っていた。そして市街地で「営業再開しました」との看板を見るたび、被災地を訪問しているのだという思いで身が引き締まった。

ボランティアセンターのある常総石下総合体育館に到着したのは7時半。茨城掃除に学ぶ会の皆様とともに8時過ぎに作業を開始した。体育館入口付近の無数のボランティア募集の掲示物が目に入る。一時よりは避難所生活をされている方々は減ったというが、体育館のフロアには段ボールで作られた仕切りが多く見られた。住み慣れた自宅を失い、避難生活をひと月以上も根気強く続けていらっしゃる方々のお気持ちを察すると胸が痛む。

私は1斑の皆様とともに1階の男子トイレの清掃をさせていただいた。「掃除に学ぶ会」の参加は初めてで、素手でトイレ掃除をやるとするのは正直やってみるまで想像ができなかった。恥ずかしながら素手でトイレ掃除をやることのねらいも、また、そこに流れる哲学も理解しておらず、作業中は隣の便器を担当していた参加者の方と雑談をしてしまった。巻き添えにしてしまった石塚君には申し訳ないことをした。

さて、実際にトイレ清掃をしてみても驚いたのは、思いのほか目の前の便器をきれいにする作業に没頭する自分がいたことである。中学1年の時、クラスの仲間と一年中トイレをはだして清掃していたこともありトイレ清掃にはもともと抵抗はなかったが、清掃、とりわけトイレ清掃には自分と向き合い、心を整える効果があるようである。とかくトイレ清掃は罰ゲーム的なイメージでとられがちだが、非常に教育的な効果が高いという思いを新たにしました。

今回も多くの素敵な方々との出会いがあったが、いつもながら

八潮高校の生徒の皆さんには頭が下がる。本当に素晴らしいことをしているのに、常に自然体で爽やかなのだ。また、先週単独でボランティアとして駆けつけた寺田君という生徒がいたことを知った。高校生だからという甘えや言い訳もなく、被災された方々の思いに気づき、自分が何ができるか考え、行動することができる寺田君の行動力にはただただ感嘆する。村田先生をはじめとする先生方のご指導が実を結んでいることを実感した。

今回は半日の活動であったが、まだまだ支援、特に人手は必要である。今回の会で見聞きしたことを周りに伝え、できるだけ早く戻ってなんらかのお手伝いができればと思う。

最後に、丁寧にご指導くださっただけでなく心のこもった食事を提供してくださいました茨城掃除に学ぶ会の皆様、関係各位の皆様、背中で人間かくあるべきと教えてくださった参加者の皆様に感謝して結びのことばとさせていただきます。ありがとうございました。

「ありがとうございました」

中村 路佳

二回目となる今回の活動は、常総市石下総合体育館の避難所に行かせて頂きました。当時の避難者は790人で、今も多くの方が避難所生活されています。施設の外のトイレは汚れが目立ち、室内は見た目は綺麗ですが、よく見ると黒ずみがありました。それ以上に苦戦したのが洪水の影響が残っている下水の臭いです。

臭いに耐えながらも、高校生が頑張って磨いたトイレからは輝きが戻りました。

お昼は、頂いたおにぎりときゅうりの差し入れをみんなで食べ、高校生の感想を聞きました。

〈感想〉

・普段見ることのない汚れは、意識しないと綺麗にならない。

・トイレ掃除の後で食欲がなかったけれど、差し入れのおにぎりが美味しかったので沢山食べた。

・みんなで協力すると、綺麗になるということがわかった。学校生活でも生かしたい。

・学校のトイレより手強かったけど、綺麗になった時に達成感があつた。

・トイレを使ってくれる人の笑顔が嬉しかった。またやりたい。

・赤ちゃんが使うトイレが汚かったから綺麗にできて嬉しい。避難所にいるお母さんに安心して使ってもらいたい。

東日本大震災以来、八潮高校の生徒さんと共に活動してきましたが、復興支援を通して、様々な夢を見つけた子達に出会いました。

彼らの心に火を付けたのは、ご自身の学校で活動を続けてこられた村田先生です。

『平凡な教師は言ってみせろ。』

よい教師は説明し、優秀な教師はやってみせる。

しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。』

という言葉があります。

『最高の教師に心の火をつけられた子どもは、周囲の大人の心に火をつける』

ということを今回学ばせて頂きました。

八潮高校の皆さんから頂いた学びを、今後の活動に生かしたいと思えます。

最後に、日本を美しくする会の方々、村田先生、八潮高校の生徒の皆様、一緒に活動を共にしました皆様とのご縁に感謝致します。ありがとうございます。

〈鬼怒川洪水の歴史〉

大雨による氾濫で甚大な被害をもたらした鬼怒川ですが、もとは絹川・衣川と呼ばれていました。しかし、1723年(享保8年)に台風による大洪水で千数百人の方が亡くなり、それ以来、絹川から鬼怒川になったそうです。ちなみに、鬼怒川近くには小絹駅があります。

また、今回洪水があった常総市は、かつて「水海道市」(みつかいどう)と呼ばれ、2006年に水海道市と石下町が合併した際に常総となりました。

シルバーウィーク中のボランティアで伺ったお話ですが、この洪水以来、自分の地域の歴史を調べる方が増えたそうです。やはり、地名などにはご先祖様が意味あつて残したメッセージが込められているのだと思いました。

一回目のボランティアを通して感じたことは、「まさか自分がこうなるなんて・・・」と皆さんがおっしゃっていたことです。東日本大震災での教訓を生かそうと防災対策に備えていたはずなのに、「私は大丈夫」と安心している自分がいることに気がつきました。でも、いつ自分になるかは分かりません。

日本列島で2004年～13年の10年間の間に1度でも水害にあったのは、なんと96.8パーセントだそうです。私は、東京に住んでいます。次に考えなければいけないのは「荒川」です。荒川堤防が決壊した場合、死者が3、718人だと言われ、江戸川区で水没しない可能性がある避難場所の小中学校はたった21校で人口68万人中、46万人が避難できません。そして、東京は地下鉄があります。洪水が起きた場合、地下鉄97駅が浸水するそうです。地下鉄通勤している私は、逃げ場がありません。

自然に逆らうことはできませんが、自然とどう向きあい共存していくのか、我々人類の永遠の課題だと思いました。

「第156回茨城掃除に学ぶ会」感想文

認定NPO法人日本を美しくする会 阿部 豊

『百聞は一見に如かず』、3. 11東北震災の翌月4月8日、被災地の南相馬市原町の避難所への炊き出しとトイレ掃除を済ませた後、被災現場を見たときのショックは今でも鮮明に記憶され、いつまでも忘れることはできません。

そして広島に続き今回の鬼怒川災害と心を痛め、「一刻も早く被災地へ行かねば」と思っていたところ、ようやく時間が取れ9月27日に続き、今回も「茨城掃除に学ぶ会」様にお世話になり参加することができました。

今回の八潮高校発のマイクロバスには24名様をご参加いただき、そのうち何と14名が八潮高校生の方々、しかも大半が初参加でした。これは3. 11以後「被災現場を見るだけでも」と言い続けてきた私にとりまして無上の喜びであり、特に若い学生さんにご参加いただいたことは、ご本人にとっても貴重な体験と大きな刺激であったと思います。

それは日常の学校生活では体験不可能なことであり、戦後70年を経て南・東シナ海、南沙諸島に中国が11か所を軍事基地化し、日本の生命線であるシーレーン(海上輸送路)が危機に直面、更に日本の国土、領空・領海を侵犯、北朝鮮にはミサイルで脅かされている現状に【ノホホン】として危機感のない平和ボケ日本と国民。『自分の国を自分たちで守ろう』という気力を失った日本、極めつけは国債発行100兆円という借金を抱えてしまった日

本。この国を、今の平和を維持していくためには、全国民が一致団結し力を合わせて、多額の税負担など相当な犠牲を覚悟しなければなりません。東北・広島・常総と続く震災は『日本人よ！頑張れ』という天の声であり、警鐘であると思いつつ、帰途のバスにおける若い八潮高校生の皆さんの感想発表を拝聴し、感動いたすとともに日本の将来に明るい展望が開けるものと嬉しくなりました。

最後になりましたが、2週連続の日曜日に手作りの美味しいおにぎりを提供いただいた塚越様ご一家とお手伝いいただいた皆様に感謝、感謝。そして短期間に八潮高校生を初めとし、参加者を24名も募った村田先生の間力とリーダーシップに脱帽、また美味しい新鮮な「胡瓜」を惠贈くださった熊谷の農家荻野博様と大好評の「甘味噌」つくり名人、岐阜の梅村昭博様に厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

「お疲れ様です」

岩村 実

今まで震災の被災地で数回参加させて頂きましたが、掃除に学ぶ会は今回初めての参加となります。

町の被害状況としてはガードレールがひしゃげ、植物、特に稲が変に曲がっている物も見られ、道の端には泥が残り、宮城のそれと似た印象がありました。

避難所へ直接伺ったのは今回が初めてとなりますが、実際に避難されている方々の居る所をのぞく勇氣は出ませんでした。

八潮高校二年 誉田 斗亜

活動内容はトイレの清掃と言う単純かつ重労働な内容でした。

作業途中に何人かの方がトイレを利用しに来られましたが、何とかスムーズに行えたかと思えました。

これは、リーダーを担当された掃除に学ぶ会の方が上手く仕切って頂いた結果だと思えます。

また、少し休憩を取るために廊下に出た際に避難されている方から、

「随分しっかり掃除するんだね」

と声を掛けて頂きました。

一緒に参加したメンバーがいかに真剣に活動しているかがよく分かる言葉でした。

埼玉県立八潮高等学校 小河 來夢

活動後に頂いた昼食が(軽食と聞いていましたがしっかりと頂きました)大変美味しく、
用意して頂いた皆さんへも感謝しきりです。

仕事の都合も多々あり、参加できる機会が少なく大変申し訳なく思っています。また都合が合えばお願いしたいと思えます。

今回も声をかけて頂き本当にありがとうございました。

今回は2回目のボランティアでまた一つ学べた事がありました！

最初はトイレ掃除と言うので抵抗はありましたがやってみたら汚れがなかなか落ちずとても時間がかかりました。掃除をやっていくうちに汚れが強かったのでつい熱中してしまいました！

物は誰かが掃除しているから綺麗な状態が保たれているけど被災された方はガレキの撤去などで忙しいので少しでも役に立てることがとても嬉しいです！
ありがとうございました。

10月4日日曜日、掃除に学ぶ会として被災地である茨城に行きました。体育館のトイレを掃除するということで、私が担当したのは体育館の1階の男子トイレでした。人数は約10人ほどで、周りは私の知らない方ばかり。ですが、リーダーの木村さんがそれぞれメンバーにトイレ掃除のやり方を教え、約3時間、必死に便器を掃除しました。

私はこの会に参加する前、どれだけの人や物が被害にあっているのか、軽く考えていました。他の方たちがやっているからだ、いぶ片付いていないのではないかと。しかしそんなことはなく、

災害の傷跡は色濃く残っていました。

『1人1人の力は小さいものかも知れないが、1人1人が出した力を合わせれば、とつても大きな力になる』、私は福島のリボラティアで自分なりに学びました。

今回の被災地でも同じことなんだと、私は感じました。まだまだ傷跡が残っているということは1人1人が少ない、ということ。ならば私もその1人になって、少しでも早くこの傷跡が消えるようにと思ひ、

たかがトイレ掃除、されどトイレ掃除。

私は今回和式の便器1つしか綺麗にできませんでした。しかし、その1つに真剣に取り組み、ピカピカにすることができました。たった1つの便器。それを綺麗にしても周りの方たちは何も思わないかも知れません。しかし、自分がやったことに意味があるのだと、私は思います。

今回のこの掃除に学ぶ会に参加できてよかったと、とても思いました。

「掃除に学ぶ会感想」

三年四組 寺田巧

今回のボランティアで僕は、3回目の常総市のボランティアでした。

1、2回目のボランティアでは、実際に被災された民家に行き、家の中や家のまわりにたまったヘドロなどを取り除いたり、

瓦礫などをトラックに運ぶ作業等をしました。決壊したところから1.2キロ以上も距離が離れていても、胸の辺りまで泥水が来たそうです。家の庭に置いてあった車やバイク等は全滅、水が来たときに運べるものは二階に移動したそうですが、冷蔵庫などの大きい家電や大きい家具等が全て使い物にならなくなってしまったそうです。水が家に段々押し寄せてくる光景は相当の恐怖感があったと思います。そして、被災された方は毎日の片付けに追われ本当に大変な思いをしていることが分かりました。

もつと、そういった人の役にたちたいとますます思いました。

今回のボランティアでは、被災地ではなく、被災されたかたが避難されている避難所のトイレ掃除をさせていただきました。僕は外にある公衆トイレを担当しました。トイレは想像を越えるほどの汚れ具合で最初は正直、本格的なトイレ掃除をしたことの無い僕は自分にそのトイレをキレイにする事ができるかととても不安でした。しかし、同じ班の方が丁寧に教えてくださり段々コツはつかめてきました。それでも落ちない頑固な汚れもありましたが、避難しての方が気持ちよくトイレを使えるように、という強い気持ちがあったので、めげず汚れが完全におちるまで擦り続けました。時間までに何とか汚れを落とすことが出来ました。最初とは見違えるようなかわりようでした。

終わったあととはすごく心が清々しい気持ちになったのと同時に、これで避難してる方は気持ちよく使える、と思いました。

そしてこのボランティアでは、誰かがやってくれることは当たり前なことではなく、どんなに大変で誰もやりたがらない仕事でも誰かしらがやっていると、ありがたみをもつてくれる感じがする

ボランティアになりました。そして誰もがやりたがらない仕事こそ、人に求められてるのではないかと感じさせる1日にもなりました。

今回はこのような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございます。

これからも、人の為になれるような活動をしていきたいと考えています。

「感想」

八潮高校二年 佐々木春輝

掃除に学ぶ会でのトイレ掃除は3回目で学校と同じようにすぐ落ちると思った尿石も簡単には落ちず大変でしたが終わって綺麗になったトイレを見て凄く達成感がありました。このような経験を学校生活に生かしていきたいと思えます。

「トイレから学ぶこと」

八潮高校三年 庄司 悟

10月4日に行われたトイレ掃除で学んだことは、普段になげなく使っているトイレがどれだけ汚れていてそして掃除が大変かを学びました。

尿せきをとるのにもすごい時間がかかり最初は汚れが落ちてい

るのかわからないほどでした。自分のなかでは正直触りたくない気持ちがあり見たためでこれでいいだろうと思っていたら班長の方が手で便器をさわり、まだざらざらだねっと笑いながら教えてくれた時は本当に驚きました。なんの抵抗もなく便器を触ったというだけの行動に正直驚きを隠せませんでした。班長さんの行動を見てからなにかがふっ切れ磨いては手で触りの作業を続けてました。最終時間がくる頃には自分も便器を普通に触り、汚れが残っていないかを確かめました。私たちの生活にはなくてはならないトイレは使えば必ず汚れるものなので誰かが掃除をしなくてはなりません。その誰かに一日でもなれたことがとても嬉しかったです。

「10月4日 ボランティア」

ものつくり大学 建設学科 石塚昂希

今回のボランティアは、トイレ掃除でした。

私はボランティアでいつも少しの後悔をします。それはもっと作業をしたかったと思う事です。

ですが作業中に周りの人から、お礼の言葉や励ましでやって良かったと思います。なので後悔は次回のボランティアに残っています。

今回のトイレ掃除で私は、1つの事に逃げずに取り組む事を思い学びました。次のボランティアでは別の発見をし、被災地に学びたいと思います。

「感想文」

二年一組 宮本理史

バスに乗る前は南相馬の時のように人は多いだろうと考えていました。しかし、人があまりいないのに驚きました。

現地に着いてみるとトイレ掃除をする事が今回の目的なので頑張ろうと思いましたが初めてなので少し不安もありました。トイレの中は蜘蛛の巣があったり小バエがいたりで追い払うのに大変でした。

私は便器を掃除して綺麗にしました。最初に比べると、驚くぐらい違いがわかりました。

今回のボランティア活動は小さな事かもしれませんが現地の人たちにとっては大きなことかもしれないと考えるとやってよかったと思えます。

次回も機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思いません。

「茨城掃除に学ぶ会の感想」

二年三組 根岸 希

今回はボランティア初の茨城でした。福島とは違い、室内のトイレ掃除だったので、普段学校で使わないであろう道具がありとても驚きました。私は説明を受けながら行ったので、一人でやるには時間がかかりました。その為、時間がなくなりました。

最後までやり遂げることができなくて、もう早く動けばよかったと後悔しています。

次、もし機会があるなら、今回のことを生かして速やかに行いたいと思いました。

一年 村中 遥

今回の掃除を学ぶ会では茨城県での

掃除でした。私はずつと被災した所を綺麗にしに行くと思って

いましたが、今回は影ながら応援をすると言うことでトイレそうじでした。

最初は、「ここまで来てトイレか…」と何度も思いました。ですが、

トイレが汚かったら使用者の気持ちはどのような気持ちでしょうか。

そう思うとヤル気は出てきました。私は〇班で毎回見かけてる佐久間さんと同じでした。掃除開始で、私は

中にある道具を全て拭いてから便器でした。いつも通り綺麗にしてみました。

リーダーが来て「流石経験者だね！」と褒められました。嬉しかったです。

目に見えない汚れを落とすには、手で

触らなければなりません。私は綺麗にするために頑張りました。やつと終わり、お昼では美味しいおにぎりやきゅうりなど、とても美味しかったです。そこで先輩やチームと仲良くなれたので良かったです。今回は今までの経験が役にたつたと思います。

今月の被災地ボランティアでは柔道部ほとんどが行くので、楽しみです。以上です。

二年 村中未来

今回のボランティアは柔道部から参加したのは私と妹だけでした。もつと来るかなと思っただのですか昇級審査と被ってしまいほとんどが来れなくて残念でした。ですが、ボート部の根岸さんや先輩、陸上部の方たち、三年の先輩たちが参加してくださったおかげで盛り上がったと思いました。

今回私が掃除したのは1階女子トイレでした。思ってた以上にとても綺麗で掃除しやすかったです。けれど臭いがとても強烈で今回の掃除でこの臭いを何とかしようという気持ちで掃除に励みました。

同じ班の方たちと協力しあいスムーズに掃除することができま

した。今回の目標だった臭いのやつも綺麗に消すことが出来ました。使う人が喜んでくれたら嬉しいです！



Short essay on my volunteering experience in Joso City, Ibaraki prefecture

I remember the day I was at work. My co-worker turned on the television and news on the horrific typhoon Etou was broadcasting. I remember seeing the mucky flood water sweeping away homes, people stranded on their roof top crying out for help, and I remember seeing the few people that could help in search and rescue. I asked myself “How can I help?” And when I found out that I could come to go to Joso City as a member of a volunteer group, I sign-up immediately. I may not be a citizen of Japan, but I am a proud resident. I believe patriotism is not about loving your country, but rather loving the people of where you live; regardless city, prefecture, or country. One man is not a nation and one man can't save a nation. Which is why I cry for schools to start a volunteer program like Yashio High School. Japan is an island nation prone to disaster. We need *all hands on deck*. We must remember every brick is an important part of a house. No matter how big the job may be, if we all worked together, the little that we do makes a big difference.

Vic Sham (Jamaica)

Assistant Language Teacher (ALT)

Nanryo High School

Saitama Prefecture, Japan